

昭和四十二年三月十日発行

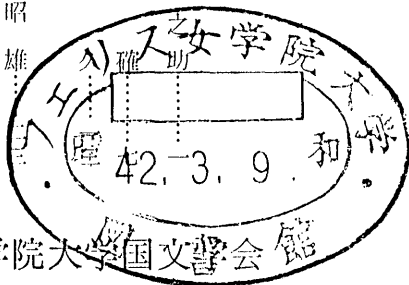
第二号

# 源 玉

## 瀬古確教授還暦記念特集

### 玉藻 第二号 目次

貧窮問答歌のク問答クに於ける リアリスティックな志向について	高木市
万葉集卷十六の用字 「今はこぎ出な」	瀬古 鶴
——出字の訓をめぐって——	
人麻呂枕詞小考	久保 昭雄
未然形承接の終助詞「な・なも・ね」	後藤 和彦
「男じもの」試解	松永多恵子
新古今歌人の伝統継承意識	藁 茂二重
「源氏物語」における「——せたまふ」 「——させたまふ」の考察	大野 玲子
八木重吉の詩について	鈴木二三雄
武者小路実篤覚え書	遠藤 祐
南朝楽府詩の創作方法	小西 昇
瀬古教授還暦記念業績一覧	一〇〇
彙報	
編集後記	



フェリス学院大学 国文学会館

編 集 後 記

フェリス女学院大学学長事務取扱瀬瀬古確博士還暦記念として『玉藻』の特集号を編むということの決まったのは昨年夏も夏期休暇前のことであった。早速、本学内の原稿締切は九月一日とし、また博士に御関係の深い方々の御寄稿もおねがいすることとし、その締切は——企画のおそかったことも手伝って——十二月一日としたのであったが、編集をあずかった委員の不手際もあり、方々からお寄せいただいた御原稿をもあわせて、すべてを整え印刷にまわしたのは、年も改まった一月二十日のことであった。この記念特集号を、博士の御誕生日一月二十七日に呈しえなかつたことを委員一同深くお詫び申しあげる。

★

フェリス女学院大学も、開学以来はや三度目の春をむかえ、ますます発展の一途を

たどっている。今更申しあげるまでもなく、ひとえにこれが博士の精力的な御指導と熱烈な学問に対する御愛情によってあることは衆目の一致するところであろう。本学に関係する一員としてわたくしども深く感謝申しあげていることはいうまでもない。

★

博士の昨年は、必ずしも御健康にめぐまれた年ではなかつた。にもかかわらず、積年の御研究の成果『萬葉集に於ける表現の研究』（風間書房）をはじめとして、『日本文芸史』（東出版）、日本古典文学大系『近世和歌集』（岩波書店）を刊行、御執筆なさるなど、その御活躍はめざましいものがあつた。この本年を起点として、今後、往年にもまして御健康であらせられ、公私ともにより一層御活躍くださるよう祈念させていただきます。

★

おわりに、御多忙中にもかかわらず快く

この記念特集号に御寄稿くださった、高木市之助博士をはじめ、本学外の諸先生に対して、厚く御礼申しあげる次第である。  
(二月十一日記)

玉 藻 第二号

昭和四十二年三月五日 印刷

昭和四十二年三月十日 発行

編輯兼 代表者 瀬 古 確  
フェリス女学院大学国文学会

印刷人 芳 山 武

横浜市中央区山手町三七

発行所 フェリス女学院大学  
国 文 学 会